

# 舞踏家・笠井叡による日本国憲法に想を得たダンスパフォーマンス

総社土曜大学

## 活動の目的

総社土曜大学では、日本国憲法に対する政治的なアプローチ（改憲・護憲）を超えた芸術的なアプローチを模索してきた。その手始めとして2019年3月1～3日に舞踏家・笠井叡を招いて「日本国憲法を踊る」ワークショップを開催した。ワークショップは、笠井自身による講義と身体を使って憲法を体感するふたつのプログラムで行われ、参加者には好評を得ることができた。ワークショップ参加者以外にも広く日本国憲法を身近に感じていただくために、笠井叡・公演「日本国憲法を踊る」を企画した。

## 活動の内容及び経過

一昨年の「日本国憲法を踊る」ワークショップは、「日本国憲法を踊る」という作品を理解するために大変有益であった。ダンス経験者のみならず一般の方々にも参加していただき、ダンスと日本国憲法という意外な結びつきが笠井叡自身の言葉で語られ、また身体を使用した具体的な行為で体験することができた。笠井叡・公演「日本国憲法を踊る」では、二人のダンサーによって大日本帝国憲法、フランス人権宣言、古事記といった日本国憲法の成立に至るまでの重要なテキストの流れが朗唱され、笠井自身がそのテキスト（ことば）をダンスとして実演した。このことばとダンスの関係は、笠井叡がもっとも重要視するダンスの要素である。ワークショップ参加者には少なからず当日のダンスの中にそのエッセンスが感じられたのではないかと思う。公演終了後のアフタートークでは、哲学者の宇野邦一を招いてダンスとことばの関係について話すことができたが、十分な時間を取ることができず消化不良に終わってしまった。

## 活動の成果・効果

憲法とダンスという意外な結びつきをどのように理解したらよいのか。法の言語である憲法が、わたしたちの生活や身体を制御することに疑いがないことは明らかであるにもかかわらず、（主催者としては残念なことだが）この公演「日本国憲法を踊る」を企画した段階で、この発想自体に疑問を感じられた方も多かったようだ。公演だけでは理解が難しいと思い、アフタートークを企画した。この公演を機会に、憲法と身体の結びつきについて考えるきっかけになればよいと思う。

## 今後の課題と問題点

公演自体は、ほぼ満席で成功と言ってよいと思う。ただ公演のみで「日本国憲法を踊る」という趣旨に対する充分



な理解が得られたかどうかは疑問である。アフタートークのおかげで公演が理解できた、という方も何人かおられたことは嬉しかった。事前のワークショップのような企画を何度か開催するのも必要かもしれないと感じている。

- 代表者：小林耕二 ●所在地：総社市長良
- TEL：0866-92-3022 ●E-MAIL：sojauniversity@gmail.com
- URL：https://www.facebook.com/総社土曜大学-421033731333186/
- 設立年：2014年 ●メンバー数：5名